

受入団体名：一般社団法人みずとわ

募集人数

10名

プロジェクト名：茨木みずとわプロジェクト—持続可能な食を考える—

<活動期間：2023年10月1日～2023年12月末日 活動日数：3日程度>

<活動日or 活動パターン>

週1日程度・定例、月1～2回・不定期 その他

<主な活動場所>

茨木市千提寺・茨木市清阪
(最寄駅・バス停など：団地入口)

<活動の流れ>

日時	活動内容
10/7	オリエンテーション（活動紹介と農作業）
11月	循環型養鶏、伝統農法、有機農業などを体験
12月	自分なりの持続可能な食を体現する

<キャンパスからの交通手段>
バス

<活動に必要な費用>
交通費

<参加の姿勢>
主体的に関わってもらえると嬉しい
です。農作業以外にも、活動したい
ことがあれば自由にご参加ください。

<コミュニケーションの手段>

電子メール Facebook

LINE 電話

その他()

<活動のテーマと主な内容>

持続可能な「食」を考え、できることを実践する。

気候変動や化学肥料や石油資源の高騰で、日本も「いよいよ食糧危機に突入した」と言われますが、私たちは地域の資源を循環させ、気候変動や世界情勢が不安定な状況化でも、「食べ物をつくる」技術と知恵を積み重ねてきました。食品廃棄物を飼料にし、平飼いで循環型養鶏を営む「清阪terrace」、江戸時代の伝統農法を全国で唯一継承し、三島独活(みしまうど)を栽培する「千提寺farm.」など試行錯誤しながら、持続可能な「食」をつくる、農家をお手伝いいただきます。また、持続可能な「食」を考えて「お昼ご飯の一品」を作ってもらい、学生の皆さんと日々の暮らしで工夫できることを共有します。

希望者には、様々な知恵と背景を持った面白い大人たちが集まり、共にまちづくりに取り組む拠点「にんげん小屋みずとわ」での活動にも参画いただきます。地域で使われていないもの、注目されていないもの、捨てられているものを知恵で「価値あるもの」に変えたり、「自分たちでつくること」で、関わる人たちが、優しくなれる場をつくっています。

本授業を受講した先輩たちも、イベントを企画したり、商品開発をしたり、主体的に関わってくれています。

<活動する現場で学生が求められる背景(理由)>

学生を求めているというよりも、地域で活動するプレイヤーを求めています。授業をきっかけに、地域に積極的に通い、自らイベントを企画したり、にんげん小屋で出会った人たちと共に活動し、地域資源の循環を担うプレイヤーになってくれた学生たちから私たちもたくさんのギフトをいただいています。ガンジーは「労働なき富」が社会的な大罪だと指摘しています。私たちは自らの手と足を動かす人が増えれば、地域だけでなく、社会はもっと良くなると感じています。私たちと共に、手と足、頭を動かし、試行錯誤してくれるプレイヤーに出会えるのを楽しみにしています。

<学生が期待できる学び>

- ・人は自然に生かされていること、人は助け合って生きていることを身体と心で理解できる。
- ・SDGsを深く理解し、目標達成に向けた行動に踏み出すことができる。
- ・私たちの命を支える「食」のリアルを知ることができる。
- ・多様な価値観に触れ、自分と社会の違う側面を見ることができる。

<活動紹介>



◆持続可能で多様な「食」をつくる農家と活動する

- ・鶏の餌やりや卵拾い、鶏小屋づくりのお手伝い
- ・稲刈りやうど小屋づくりのお手伝い
- ・野菜の収穫や土づくりのお手伝い
- ・持続可能な食を意識したみんなで作るお昼ご飯会をする。



◆学生が中心となりイベントを企画する(過去イベント事例)

- ・ガチすぎるBBQ
鶏を絞め、野菜を収穫し、火を起こすところからするBBQ
- ・竹で滑り台づくり、竹水鉄砲大会
竹を切り出し、滑り台をつくったり、水鉄砲をつくりチームに分かれて戦うイベント
- ・おすそわけ食堂
学生が農作業をお手伝いし、お裾分けしてもらった食材を使って、にんげん小屋で調理をし、地域で活動するプレーヤーと交流



◆にんげん小屋のイベントに参加する(過去イベント事例)

- ・雑草かふえ
専門家の力を借りて、食べられる雑草で料理を作って食べる。
- ・ごみについて考える
産廃の専門家に、ゴミの裏側を聞き、ゴミの活用を考える。
- ・作り置きのかき
地域の農産物や乾物を使って、作り置きをみんなで作る。